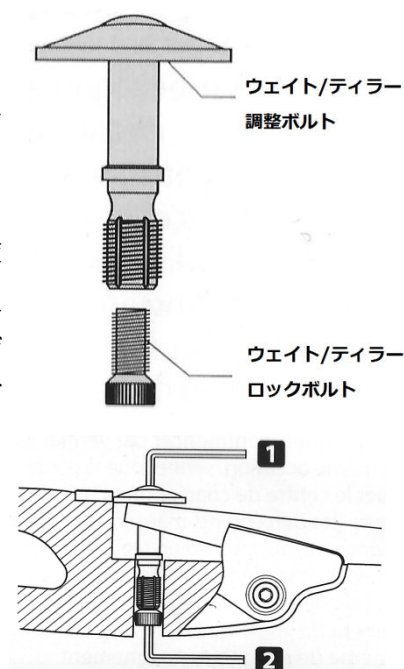


SF ELITE+ FORGED+ Ultimate Pro マニュアル

リムポケットシステム:

SF「ELITE+」「FORGED+」「Ultimate Pro」のリムポケットシステムは右の写真のパーツから成り立っています。

ティラーと弓のポンドを調節する際は、まず六角レンチを使ってウェイト/ティラーロックボルトを緩めます(2)。ポンドを上げる場合はウェイト/ティラー調節ボルト(1)を時計回りに、下げる場合は反時計回りに回します。正しいポンドにセッティングできたら六角レンチで調節ボルトを固定しながらロックボルトを締めます。ロックボルトを締めこむとき、弓は張られていない状態が理想的です。

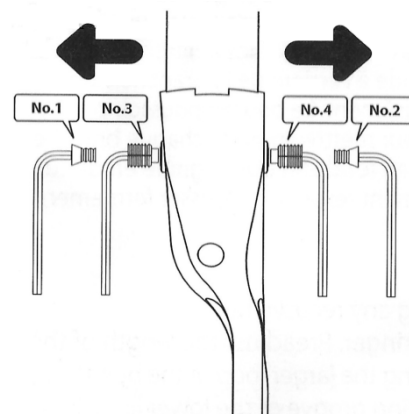


センターショット:

センターショットの調節は弓を張ったままで可能です。特殊なワッシャーを搭載しているので緩むことはありません。

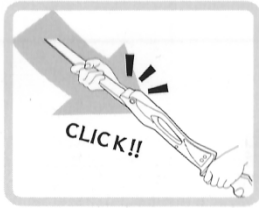
リムを右に動かしたい場合（下リムの場合も同じ）

1. 両方のロックボルト（1番と2番）を完全にはずす。
2. 内側のボルト（4番）を少しだけ緩める。
3. リムが正しい位置にくるまで内側のボルト（3番）を締める。
4. センターショットが正しい位置にきたらボルトを締める(4番)
5. 最後に両方のロックボルト（1番と2番）を締める。

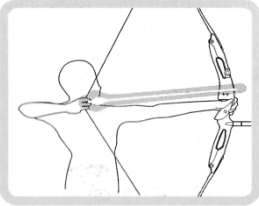


リムを左に動かしたい場合（下リムの場合も同じ）

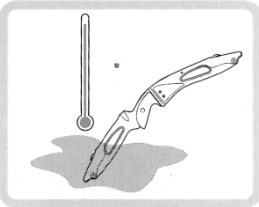
1. 両方のロックボルト（1番と2番）を完全にはずす。
2. 内側のボルト（3番）を少しだけ緩める。
3. リムが正しい位置にくるまで内側のボルト（4番）を締める。
4. センターショットが正しい位置にきたらボルトを締める（3番）
5. 最後に両方のロックボルト（1番と2番）を締める。

使用上の注意：

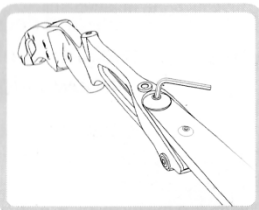
リムとハンドルは正しく、完全にかみ合うようにしましょう。弓が最大限の性能を発揮できるよう、SFの弓はハンドルとリムがフィットするようになっています。ハンドルとリムをセッティングするときは、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込んでください。この音が正しくリムとハンドルがかみ合っていることを意味します。



絶対に弓を空射ちしないこと。空射ちとは、矢をつがえずに弓を引き、ストリングを放すことです。矢をつがえずに射つことによってエネルギーが弓の中にとどまってしまう、弓に重大なダメージを与えたり、アーチャーや周囲の人に怪我をさせてしまう可能性があります。



弓を長期間、過度の熱や多湿な場所に放置しないでください。天気の良い日の車内など、高温になりやすい場所に弓を置いておくとリムの破損につながります。また乾燥しやすく高温な屋根裏や、湿度の高い地下室に置く場合も同じです。これらの場所に放置した場合は、保証の対象外となります。



ウェイト/ティラー調節ボルトの位置を確認しましょう。ストリングを張るとき、ウェイト/ティラー調節ボルトが隣のブッシングより下にしっかり入っているか確認してください。ブッシングよりも高い場合は非常に危険です。

常に安全を確認すること。弓を上に向けた状態で射たないでください。ターゲットとその後ろのエリアを常に確認しておくことを忘れないでください。

定期的にストリングワックスを軽く弦に塗るようにしましょう。リムの塗装を守るためにはカーポリッシュをお勧めします。

シューティング前に、必ずすべての矢の安全を確認します。割れたノック、破損している羽は交換し、ダメージのある矢は射たないでください。

毎回シューティングの前に弓を注意して確認しましょう。リムの破損を発見した場合は、弓を購入したショップに問い合わせましょう。

チューニング情報：

- ブレースハイト

ブレースハイトとは、ハンドルのピボットポイントからストリングまでの最短距離の長さです。このハイトはチューニングにおいて重要な意味を持ちます。次の表は、SF 推奨のブレースハイトです。

SF Recurve Bow	Long Limbs	Medium Limbs	Short Limbs
25inch	22.5~24.5cm	21.5~24.5cm	20.5~23cm
23inch	21.5~23.5cm	20.5~23cm	20~22.5cm

ブレースハイトを変えることによって弓のポンドが変わることはありません。しかし、ポンドを変えずとも、パフォーマンスには大きく影響します。例えば、ブレースハイトを1/2インチ変えることによって、矢速は2.5fpsも変化します。ブレースハイトが高ければ高いほど矢速は遅くなります。逆にブレースハイトが低ければ低いほど、矢速は速くなります。この理由はパワーストロークの長さがブレースハイトの長さの影響を受けるからです。

良いブレースハイトとは、矢速、矢飛び、良いグルーピングと静かさがバランスするポイントです。この4つのどれかを極端に追求したセッティングにすると、矢飛びがおかしくなったり、過剰な音が発生する可能性があります。

- ポンド調整

SFの弓には表示ポンドの5%ほどのポンド調節幅があります。ファインチューニングの方法としては、矢のスパインに合わせて弓のポンドを変えることが望ましいでしょう。硬いスパインにはポンドを上げ、弱いスパインにはポンドを下げます。ウェイト/ティラー調節ボルトを時計回りに回すとポンドは上がり、下げる場合は反時計回りに回します。ポンドの調節をしたときは、必ずティラーの確認をおこなひましょう。ポンド調節によっては、ティラーを修正する必要があります。

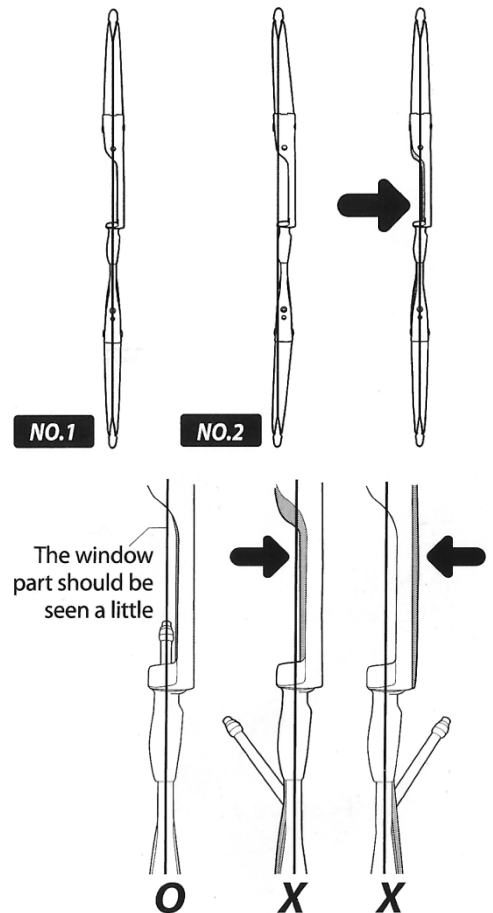
- ティラー調節

片方のリムをもう一方に対して強くしたり、弱くしたりすることをティラー調整といいます。ウェイト/ティラー調節ボルトを時計回りに締めるとそのリムが強くなり、リムとストリングの間の距離が縮まります。ボルトを反時計回りに回すと、逆の結果になります。弓のウェイトを変えずにティラーのみをしたい場合は、上下のリムボルトを同じ回数だけ、互いに逆の方向に回します。一度調節をおこなったら数エンド試し射ちし、結果を確認してから再調整しましょう。

ティラー調節をおこなうときは弓を張っておこなった方が望ましいです。シューティング中ティラーが変わることはどの弓にも起こりえます。変化があった場合でも、多少の例外を除き、数時間ストリングを緩めた状態で弓を置いておけばティラーは正しい状態に戻るはずですが、したがって、ティラーに変化が出たからといって、すぐに調節をおこなうのは早計です。弓を一度外し、再びストリングを張れば通常のティラーに戻るはずですが、ただし、定期的にリムバランスの調節をおこなう必要がある場合もあります。

- センターショット(アラインメント)調節

リムとハンドルのアラインメントを正しく、正確に保つためには、ストリングが上下のリムの中心をまっすぐ通っているかを確認する必要があります(この確認作業の中でストリングがグリップの中心を通っているかも確認しましょう)。図(上)にあるように、上下のリムの中心をペンでマーキングします。これら上下のリムの中心(ペンでマーキングした位置)に加えて、ストリングはグリップの中心を通ることも必要です。



図(下)にあるように、上下のリムが両方とも左に傾いている場合、リムを中心に見てしまうとアラインメントがあっているように見えてしまいます。このまま射つとサイトピンが右を向きやすくなり、グルーピングも不安定になるので、調節する際にはハンドルを中心に確認を行いましょう。

リムとハンドルの間違ったセッティングを防ぐために、下記のステップを参照してください。

1. ウィンドウの内側がわずかに見えるように弓を持ちます。このとき、センタースタビライザーの中心が弓の中心にあるとなお良い。ただし、多くのスタビライザーはここまでまっすぐではありません。
2. この状態で弓を見ながら、ストリングとリムの中心が正しく調整されているか確認します。合っていないければ再調整をします。
3. 上記の二つのステップを繰り返すことによって、正しく調整できます。
4. 完璧に調整された弓はハンドルのウィンドウがわずかに見える状態で、弦がリムとセンタースタビライザーとグリップの中心を通るはずですが、